

豊後高田市水道事業経営戦略（概要版）

第1. 策定の背景

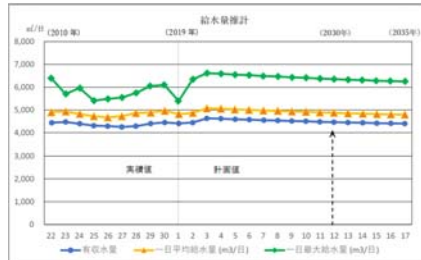
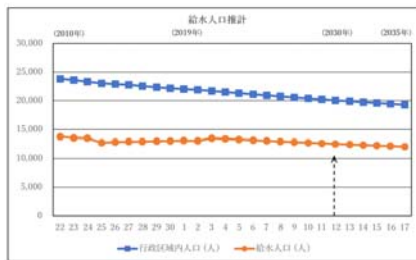
- 豊後高田市水道事業では、人口減少や節水機器の普及により水需要の減少が予測される一方で、老朽化が進んだ施設の更新や耐震化に多くの費用が必要となることから、経営は厳しさを増すことが見込まれます。こうした中、将来にわたって健全な経営を維持していくため、水道事業の経営戦略を策定します。
- 経営戦略の計画期間は令和3年度～令和12年度までの10年間とします。

第2. 水道事業の現状と課題

- 給水量の減少：一日最大給水量はH22年 6,391 m³/日→R1年 5,393 m³/日と減少を続けています。
- 施設の老朽化：高度成長期に整備された施設の多くが老朽化しています。構造物について30%の施設が法定耐用年数を超過しさらに老朽化が進んでいます。
- 経営の状況：料金収入については、近年では世帯数の増加等により安定していますが、将来は投資に必要な財源を確保する必要があります。

第3. 将来の需要予測

- 今後も減少傾向は続きますが、未普及地域の解消などを踏まえ、R12では一日最大時で6,700立方メートルを見込んでいます。

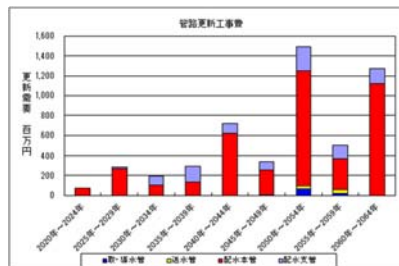
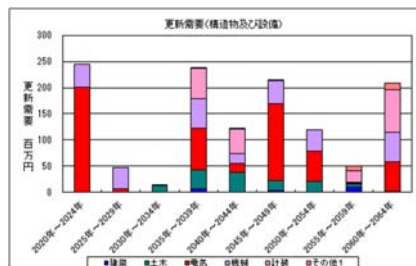


第4. 経営戦略の基本理念と方針

- 経営戦略では「投資・財政計画」を策定します。
- 投資計画では、投資の合理化を図ります。
- 財政計画では、経営の効率化、健全化に取り組みます。

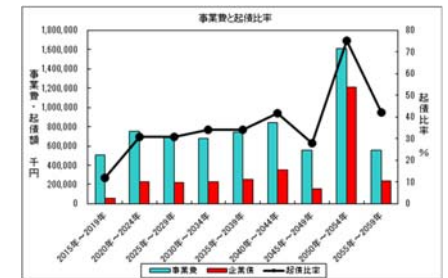
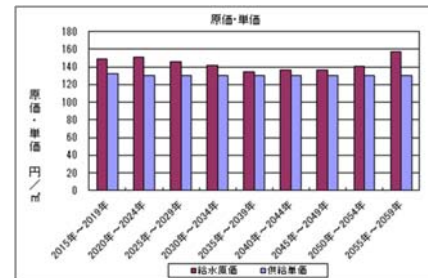
第5. 投資計画

- アセットマネジメント計画に基づき算定した更新需要は、将来40年間で62億3,300万円と見込まれます。平均すると1年間当たり1億5,600万円の投資が必要となりますが、事業の需要度、優先度を考慮し、投資の合理化を図りながら施設の耐震化等の更新を進めます。



第6. 財政収支の見通し

- 主な財源である水道料金、企業債について財源構成のあり方を検討しました。
 - 水道料金：現状の水道料金は1 m³あたり使用した場合の供給単価が130円となりますが、現状では原価がそれを上回っています。将来財源が不足する場合には料金改定の検討が必要となります。
 - 企業債：企業債への依存度は全国平均値に比較しやや高い水準となっています。企業債への依存は将来への負担が大きくなることから企業債残高の抑制を図ります。
- 現状の財源試算では収支不足が発生していますが、他会計からの補填により資金残不足を解消しています。投資財源が不足する場合には新たに料金値上げなどが必要となります。



第7. 収支計画の取り組み

- 財源試算では収支不足が見込まれます。将来にわたって安定的に事業を継続するためには収入と支出の均衡を図らなければなりません。
- これまでも組織の見直しや民間活用等の経営の効率化と健全化に取り組んできますが、さらに運営経費の節減に努め、現行の投資計画に関しても合理化を図ります。
- 将来にわたって水道事業を安定的に運営するため、収支不足の解消に次の施策に取り組めます。
 - 水道施設規模の適正化：施設のダウンサイジングを検討し、施設規模の適正化を図ります。
 - 水道施設の適切な維持管理：突発的な事故発生リスクを軽減できるよう、施設の状況把握に努めます。
 - 広域連携や官民連携の検討：管理の一体化、施設の共同化などを検討するとともに、官民連携について検討していきます。
 - 水道料金適正化の検討：更なる経営の合理化に努めつつ、料金の適正化について検討していきます。

第8. 経営戦略の事後検証

- 経営戦略の進捗は「計画策定→実施→検証→評価→改善」のPDCAサイクルで管理していきます。
- 豊後高田市水道ビジョンも含め必要に応じて計画の見直しを行います。